

## 風力発電設備の解析技術確立

【長崎】東芝は風力発電設備の出力を増大するための解析技術を確立した。鹿児島県長島町に設置した初の自社ブランド風車に多数のセンサーを設置し、従来より出力を最大2割程度高めても長期に安全運転できることを確認した。「九州発」の技術を生かし、風力発電が盛んな九州などで新規や建て替えの需要を開拓すると同時に、欧州など世界市場に本格進出する。

東芝は長島町に新たに建設した出力2000キロワットの風車2基に300点以上のセンサーを付けた。温度や湿度、振動、ゆがみなどを測るのが目的で風車を造る段階から巨大な羽根に光ファイバーを埋め込み、羽根の内外部や風車を支える鉄塔、発電機などにセンサーを設置。3月末から半年以上かけて風速や風向など時間とともに様々に変化する風の力が風車にどういった荷重を与えるかを測定した。

### 「補足資料」

#### 【鹿児島】新長島黒ノ瀬戸風力発電所が完成

2015/11/17 鹿児島建設新聞

シグマパワーージャネックス(株)(石井八弥社長、福岡県)が運営する長島黒ノ瀬戸発電(株)(同社長)が建設を進めてきた「新長島黒ノ瀬戸風力発電所」の竣工式が13日、長島町下山門野の現地で行われた=写真=。

2014年4月に着工した同発電所は、風車に東芝製を採用(風車直径88m、ハブ高75m、最高到達点120m)。出力2000kWを2基建設し、15年3月に完成。4月から営業運転を開始している。年間発電量は一般家庭2200戸分を予定している。地元からは、道路開設や風車基礎を川床石油設備工業(牧一行社長)、電気を東電設(東則行社長)が担当した。

竣工式では、施工業者や行政・自治体関係者ら約40人が出席。神事では、石井社長や川添健長島町長らが神前に玉ぐしを捧げ、今後の安全を祈願した。直会では、石井社長が「より多く発電することでCO2削減に貢献したい」と挨拶。その後、施工業者に感謝状が贈られ、代表で牧社長が感謝の言葉を述べた。